

敬天新聞社 御中

失礼をお許してください。

私は北里大学医学部に勤務する者です。

貴紙が我が校の不正を叩いていると知り、この手紙を送らせていただきました。

北里大学医学部では昨年2度も事故がありました。その1つは、昨年9月12日夕方に研究用液化炭酸ガスのボンベが破裂したという事故です。この事故で怪我人は出なかったことはよかったです。医学部事務室の対応は酷いものでした。危険物の管理は全くされておらず、事故発生時もボンベがあったことすら把握していないという状態でした。

もう1つは、昨年12月24日夜に医学部解剖学研究室から火が出たという事故です。9月に起きたボンベ破裂事故を反省し、危機管理を徹底しなければならなかったにもかかわらず、3ヶ月間、ボンベを納入した業者に責任を押し付けることに躍起になっていました。添付の資料をご覧になればおわかりのように、「法令違反もなく、本学に責任は一切ない」と他人事です。そのようなところに火災が起きました。タコ足配線からの漏電が原因と見られています。火災発生第1報は守衛が岩本孝一事務長に入れたのですが、岩本事務長は「俺の家は鎌倉だぞ。今から行けるわけないだろ。だいたい今日は何の日かわかっているのか。クリスマスイブだぞ。俺は家族第一主義なんだ。他に人を呼べ」と言いつつ電話を切ってしまいました。次に岩本事務長が重用する佐々木洋一総務課長に電話をかけたところ、全く出ませんでした。困り果てた守衛は、千葉啓子教務課長に電話を掛け、駆け付けてもらったのですが、燃え盛る火を前に消防隊が千葉課長に「火元の研究室にはどんな薬品があるのか?」と尋ねたところ、「私、全くわからないの。火事だから来いと言われたから来ただけ」と答えたため、消防隊に「糞の足しにもならない!」と言われる始末でした。薬品によっては水をかけるとかえって燃えるものがあるので、消防隊は保管されている薬品を見極めたうえで、最適な消火剤を用いようとしたのですが、事務室に危機管理意識が全くないために、保管薬品を知る技術職員が駆け付けるまで1時間近く火を傍観することになり、火元となった医学部1号館5階は焼失し、消火の水が下の4・3階に回り、学位論文提出間際の大学院生の研究データが失われました。翌日、岩本事務長は「中途半端に燃えると火災保険が出ないから、これくらい燃えてよかった。高い保険料を払っているんだから。古い校舎だから全部燃えてくれればよかったのに。保険金はリフォーム代だな。俺が前面に出たら、火元の阪上教授の顔に泥を塗ることになるから、来なくてよかったん

だよ」と、佐々木課長は「電話に全く気付かなかった」と涼しい顔をしていました。

学内では岩本事務長の無責任さが知れ渡り、「岩本を懲戒処分すべき」との声が上がっています。この声を聞いたのか、事の重大さやっとわかったのか、岩本事務長は「俺を処分するなら、学部長、火元研究室の阪上教授も処分しなければ、納得が出来ない」と言いつつも、懲戒委員会が立ち上がった場合、委員長を務めることになる人事担当常任理事の川上倫教授にゴマを擦っています。

火元研究室の阪上洋行教授は高慢な人間ですが、今回の事故でかなりのショックを受け、沈んでいます。阪上教授以上に可愛そうなのが、昼夜を問わずに実験に勤しみ、そのデータを取って論文に用いようとしていた大学院生です。事務室の不出来な管理職の愚行により、それまでの苦労が一瞬にして消え去られました。

以前、貴紙に我が校執行部、幹部事務職員の不正を糾弾していただき、組織の正常化へ前進することができました。どうか今回も医学部における事故についても糾弾していただき、学生、教職員が安心できる組織になれるよう、お力をお貸しください。

北里大学医学部 事務職員
技術職員

平成 29 年 12 月 25 日

北里大学

学 長 伊 藤 智 夫

学部長 宮 下 俊 之

医学部研究エリアの火災について（速報）

昨日午後 10 時 9 分頃、本学相模原キャンパス医学部M1 号館 5 階研究エリアにおいて、火災が発生しました。発生後、速やかに消防ならびに警察に連絡し、消火活動を行い、約 3 時間半後に鎮火しました。

今回の火災により建物および機器等の損害はありましたが、幸いにも人身被害はありませんでした。関係者の皆様に大変ご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。早急な原因究明と教育研究環境の復旧に尽力いたす所存です。

現在、詳細な現場検証を消防ならびに警察が実施しておりますので、詳細が判明次第ホームページ等で速やかにお知らせいたします。

以 上

問い合わせ先

医学部事務室・岩本

TEL : 042-778-9001

平成 30 年 1 月 18 日

関係者 各位

理事長 小林 弘 祐
学 長 伊 藤 智 夫
医学部長 宮 下 俊 之

医学部研究用液化炭酸ガスボンベの破裂事故について（最終報告）

平成 29 年 9 月 12 日（火）に発生した本学相模原キャンパス医学部における研究用液化炭酸ガスボンベの破裂事故につきましては、9 月 13 日（水）に速報として被害状況等についてご報告いたしました。その後、当該ガスボンベの納入業者と原因究明のため調査を進め、この度、調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

研究等に使用される高圧ガスボンベは、通常、ガス販売業者所有であり、多くの消費者（企業、研究機関等）に繰り返し使用されますが、今回の調査で、本学以外の特定の施設で特定の時期に使用された際に水が混入したガスボンベが、複数見つかりました。本学で破裂事故を起こしたガスボンベも、同時期にこの施設での使用履歴が確認され、水が混入した状態で炭酸ガスが充填されていたこととなります。このガスボンベが破裂に至った原因としては、腐食部金属分析結果により、ガスボンベ内へ混入した水に炭酸ガスが溶けたことで炭酸腐食を生じたこと、また、高圧下というガスボンベ内の環境が予想外の激しい腐食をもたらした結果、内部腐食によりガスボンベに穴が開き破裂に至ったとの結論に達しました。本調査結果を、本件の所轄部署である神奈川県央地域県政総合センター環境部へ報告したところ、「現在、法令等で規制している検査等においては、今回のような水の混入による高圧ガスボンベの破裂事故は想定外のことであり、今後の再発防止対策として、ボンベの検査業者及びガス充てん業者へ注意喚起を促すとともに、神奈川県のホームページに事故事例として掲載する予定である。」との見解を得ております。本学では医学部での使用について問題はないと考えております。

本件につきましては、関係の皆様には大変ご心配をお掛けいたしました。本法人においては、既に再発防止に向けて、全キャンパス内に設置している各種ガスボンベの再点検を実施しました。また、ガスボンベ納入業者に対しても、水の混入を防止するため、炭酸ガス容器の容器弁を直ちに、残圧保持・逆流防止機能付きのものに更新するよう要請しており、教育研究環境の安全確保に努める所存でございます。

以 上

問い合わせ先
法人本部総務部広報課
TEL : 03-5791-6451